

江津地域の今後の県立高校の在り方について

1 これまでの経緯

6月議会	「基本的な方針（案）」を説明
6月30日	江津市説明（市長・副市長・教育長）
7月5日	江津高校関係者説明会
11日	江津工業高校関係者説明会
15日	地域説明会
8月9日	島根県総合教育審議会への諮問・意見聴取
上旬	産業界（商工会議所・商工会）からの意見聴取
9月13日	第2回島根県総合教育審議会
10月6日	第3回島根県総合教育審議会

＜参考＞基本的な方針（案）

- ・ 江津地域の子どもたちの進路の選択肢の確保と、教育活動の充実を最優先に考え検討
- ・ 1学年2学級の江津高校と江津工業高校を統合し、新たに1学年3学級の高校を設置
- ・ 江津高校が築いてきた地域連携による進学を念頭においた学びを継承
- ・ 江津工業高校の伝統を生かすとともに、県西部の工業教育へのニーズに対応できるよう、工業教育の更なる魅力化を検討
- ・ 工業教育の実習施設・設備が必要であることから、新設校は江津工業高校の場所を念頭
- ・ 開校する時期は、教育課程の検討と、それを踏まえた施設整備のため、令和10年度前後を想定

2 第2回島根県総合教育審議会における審議状況

(1) 「地域関係者（4名）からの意見聴取」における主な意見等

① 江津市教育委員会教育長

- ・ 高校ではコンソーシアムの取組により、また、小中学校でも令和7年までにすべての学校でのコミュニティスクールの導入を目指しており、地域と学校が一体となった教育に取り組んでいる
- ・ 地元企業・ポリテクカレッジ島根・島根大学・島根県立大学などと連携し、ふるさと教育、キャリア教育を推進することで、子どもたちのふるさとを思う気持ちを育てたい
- ・ 普通科の学びでは、グローバル人材や、江津市で不足する医師、教員を育成する必要

② 江津高校学校運営協議会会長

- ・ 江津高校周辺地域では若い人が増え、新しいコミュニティができてきており、検討は時期尚早と考える
- ・ 協議会会長としては統合に反対だが、一市民の立場からすると、23,000人の人口に対して高校3校はマーケット的に難しいと思う
- ・ 鳥取県や広島県のように、統廃合ルールを作れば市民の納得感が得られるのではないかと

③ 江津工業高校卒業生会会長

- ・ 統合を歓迎。もっと早くから議論すべきだった
- ・ 新設校では産業人材育成という軸を変えることなく、そこへ普通科の関わりがあるといい
- ・ 高校で学んだことを土台にして、ポリテクカレッジや県立大学等に進学し、一段高い知識・技能を身に付けることも重要
- ・ 「工業高校」は時代遅れの名称
- ・ 女子生徒が確保できるよう、トイレや女子寮などの施設整備が必要

④ GO▶GOTSU コンソーシアムマネージャー

(県立学校3校と地域によるコンソーシアムの関係者)

- ・ 江津高校では魅力化の取組が進み、定員に対する充足率は高い
- ・ 江津工業高校と地域との連携は県内でもトップクラスだが、入学者数は厳しい。魅力化だけでなく小中学校との連携が必要。また、他の工業高校に比べて進学率が低く、教員が進学へのサポートに負担を感じている
- ・ 今の企業は、自分の考えを下手でもいいのできちんと言えたり、困難なことにチャレンジできる柔軟性を持った人材を求めている
- ・ 人口減少により、今後、他地域でも同じ問題が議論されていく。江津のはそのスタートであり、島根県の中でも新しい学校の在り方を考えるチャンスとなる

⑤ 地域関係者（4名）からの追加意見

- ・ 自分も最終的に言いたかったのは、今回がチャンスであるということ。ポリテクカレッジや県立大学などと産学一体でどういうことができるか。中高一貫校などにトライしてもいい。また、生徒の希望は入学後に変わっていくので、単位制の高校にするなど受け皿を幅広くするといい
- ・ 今は、1人の子どもがすべての力を身に付けるというよりは、いろんなことが得意な子どもが集まって、いいものを作っていく時代であり、そういったスキルが必要
- ・ 普通科から工業科に興味を持つ生徒もいるので、新しい学校づくりという点では、カリキュラムの選択がスムーズにできる学科、学校になるといい

い

- ・ 県が示した新設校のイメージにおいて想定する学びは、既存の学びを羅列したもの。新しいイメージで検討してほしい

(2) 「地域関係者からの意見聴取」を踏まえた委員からの主な意見等

- ・ 魅力的な新設校を設置してほしい
- ・ 島根の教育の強みは探究であると感じた。小学校から高校まで探究活動がつながることが大切
- ・ 江津高校と江津工業高校それぞれの伝統も生かしていく必要
- ・ 地域から求められている産業人材を検討するとともに、その育成にこれまで培ってきた探究的な学びを生かしてほしい
- ・ 地域への丁寧な説明をしながら進めてほしい

(3) 会長まとめ

- ・ 新設校を設置する方向性で概ね一致
- ・ 次回は、新設校のイメージや学科・学級数について検討

3 第3回総合教育審議会における審議状況

(1) 新設校の学科・学級数に係る検討

- ・ 基本的な方針（案）の他に、新たに2つの案を加えて検討（別添資料参照）

(2) 委員からの主な意見

- ・ 江津高校の入学者数はここ数年 60 名前後を維持しており、普通科系の学びの定員を 40 人とするのは地域の中学生のニーズに合っておらず無理がある
- ・ 2つの高校が統合されるときには対等性というのも大事な視点である
- ・ 配置される教員数をベースに考える方が良い
- ・ 普通科系、工業系の枠にとらわれず入学した生徒が柔軟に進路を選択できるよう、授業の相互乗り入れのような学びができると良い。
- ・ どの科の学びも探究学習を通じて島根県立大学やポリテクカレッジ島根と連携できる

(3) 会長まとめ

- ・ 新設校の学科・学級数については「基本的な方針（案）」と（案1）の2案に絞り検討
- ・ 次回は答申案を検討

4 今後のスケジュール

10月17日（火） 第4回島根県総合教育審議会

令和5年10月6日
島根県総合教育審議会資料

江津地域の今後の県立高校の在り方について

1 諮問を受けた「基本的な方針（案）」

- ・ 江津地域の子どもたちの進路の選択肢の確保と、教育活動の充実を最優先に考え検討
- ・ 1学年2学級の江津高校と江津工業高校を統合し、新たに1学年3学級の高校を設置
- ・ 江津高校が築いてきた地域連携による進学を念頭においた学びを継承
- ・ 江津工業高校の伝統を生かすとともに、県西部の工業教育へのニーズに対応できるよう、工業教育の更なる魅力化を検討
- ・ 工業教育の実習施設・設備が必要であることから、新設校は江津工業高校の場所を念頭
- ・ 開校する時期は、教育課程の検討と、それを踏まえた施設整備のため、令和10年度前後を想定

<新設校のイメージ>

基本的な方針（案）

想定される学び		1学年当たりの学級数	
進学を念頭に置いた普通科系の学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文系進学をめざすコース ・ 看護・栄養・保育などの資格職をめざす進学コース 	1学級 (40)	2学科 3学級 (120)
工業教育の更なる魅力化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械系 ・ ロボット制御系 ・ 建築系 ・ 電気系 	2学級 (80)	

2 これまでの審議会での議論

- ・ 新しい教育の在り方に挑戦するという点で新設校の方が良い
- ・ 子どもたちが魅力を感じるような学科を設置する
- ・ 江津高校と江津工業高校が築いてきた学びを生かしつつ魅力的な学科とする

3 議論のポイント

(1) 学科設定と定員バランス

(案1) 進学を念頭に置いた学びを 60 人定員とし工業系を 60 人定員とする

- ・ 進学を念頭に置いた学びにおいて、理系進学や地域についての学びに対応する
- ・ 工業科は 60 人定員で機械系・電気系・建築土木系の 3 つの学びとする

想定される学び		1 学年当たりの学級数	
進学を念頭に置いた普通科系の学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学をめざすコース (文・理) ・ 地域課題を探究し進学をめざすコース ・ 看護・栄養・保育などの資格職をめざす進学コース 	2 学級 (60)	2 学科 4 学級 (120)
工業科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械系 ・ 電気系 ・ 建築土木系 	2 学級 (60)	

※ 「基本的な方針 (案)」に比べて常勤教員が 2 人程度少なくなる可能性

(案2) 進学を念頭に置いた学びを 80 人定員とし工業系を 40 人定員とする

- ・ 進学系を念頭に置いた学びにおいて、理系進学や地域についての学びに対応する
- ・ 工業科は 40 人定員で機械系・電気系・建築土木系の 3 つの学びとする

想定される学び		1 学年当たりの学級数	
進学を念頭に置いた普通科系の学び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学をめざすコース (文・理) ・ 地域課題を探究し進学をめざすコース ・ 看護・栄養・保育などの資格職をめざす進学コース 	2 学級 (80)	2 学科 3 学級 (120)
工業科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機械系 ・ 電気系 ・ 建築土木系 	1 学級 (40)	

※ 「基本的な方針 (案)」に比べて常勤教員が 5 人程度少なくなる可能性

(2) 新設校設置によって生まれる新たな学び

① 普通科系と工業科が併置されることによって得られるもの

- ・ 普通科系の探究学習に工業科の知識・技術が加わり活動が深まることや、工業科の課題研究に普通科系のアイデアが加わり新たなモノづくりができる
例) 普通科系の探究活動で、一人暮らしの高齢者が必要としているものについて調査し、新たな道具のアイデアが生み出され、それを工業科の知識・技術で実現する
- ・ 普通科系の生徒が工業系の資格を取得し就職することができる
例) 普通科系の生徒が電気工事士等の資格取得
- ・ 工業科の生徒が普通科系の生徒とともに進学指導を受けることができる
例) 工業科の生徒が島根県立大学等に進学

② 島根県立大学、ポリテクカレッジ島根との連携で可能になる学び（イメージ図参照）

- ・ 普通科系の探究活動、工業科の課題研究を地域政策学部と連携して行う … ㉑
- ・ 普通科系の生徒が国際関係学部の講座を先行履修し、在学中または進学後の海外留学につなげる … ㉒
- ・ 地域政策学部と連携することで7年間というスパンで自らの課題と向き合う … ㉓
- ・ 人間文化学部の保育・教育職を志す学生、看護栄養学部で看護師、栄養士を志す学生をメンターとし、互いの学びを深める … ㉔
- ・ 短期大学部での学びを志向するニーズに対応 … ㉕
- ・ ポリテクカレッジ島根の学生と連携して地域課題解決などの探究的な学びを行う … ㉖
- ・ ポリテクカレッジ島根の施設・設備を使用して工業科の課題研究を深める … ㉗
- ・ ポリテクカレッジ島根との合同授業により互いに刺激を受け合う … ㉘

4 今後の検討に当たっての留意事項

- ・ 開校まで、または開校後であっても、地域や社会のニーズをとらえ、時代にあった魅力ある学びとなるよう柔軟に対応し、必要があれば見直す
- ・ パブリックコメントを実施するなど地域の声を聴く機会を持つ
- ・ 学びの内容の具体を検討する際には、生徒や地域の中学生の意見も踏まえる

島根県立大学、ポリテクカレッジ島根との連携した学び（イメージ）

